

2023年3月期 第2四半期決算短信〔日本基準〕（連結）

2022年11月11日

上場会社名 ナノキャリア株式会社 上場取引所 東
 コード番号 4571 URL <https://www.nanocarrier.co.jp/>
 代表者 (役職名) 代表取締役社長CEO (氏名) 松山 哲人
 問合せ先責任者 (役職名) 取締役コーポレート本部長 (氏名) 藤本 浩治 TEL (03) 3241-0553
 四半期報告書提出予定日 2022年11月11日 配当支払開始予定日 —
 四半期決算補足説明資料作成の有無：有
 四半期決算説明会開催の有無：有（アナリスト及び機関投資家向け）

（百万円未満切捨て）

1. 2023年3月期第2四半期の連結業績（2022年4月1日～2022年9月30日）

（1）連結経営成績（累計）（％表示は、対前年同四半期増減率）

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する 四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2023年3月期第2四半期	91	—	△697	—	△600	—	△887	—
2022年3月期第2四半期	—	—	—	—	—	—	—	—

（注）包括利益 2023年3月期第2四半期 △861百万円（-％） 2022年3月期第2四半期 -百万円（-％）

	1株当たり 四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益
	円 銭	円 銭
2023年3月期第2四半期	△12.66	—
2022年3月期第2四半期	—	—

（注）当社は、2022年3月期第2四半期において、四半期連結財務諸表を作成していないため、2022年3月期第2四半期の数値、対前年同四半期増減率及び2023年3月期第2四半期の対前年同四半期増減率の記載をしておりません。

（2）連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
2023年3月期第2四半期	6,347	4,727	74.0
2022年3月期	—	—	—

（参考）自己資本 2023年3月期第2四半期 4,696百万円 2022年3月期 -百万円

（注）当社は、2022年3月期において、連結財務諸表を作成していないため、2022年3月期の数値の記載をしておりません。

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2022年3月期	—	0.00	—	0.00	0.00
2023年3月期	—	0.00	—	—	—
2023年3月期（予想）	—	—	—	0.00	0.00

（注）直近に公表されている配当予想からの修正の有無：無

3. 2023年3月期の連結業績予想（2022年4月1日～2023年3月31日）

（％表示は、対前期増減率）

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属 する当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	184	—	△1,540	—	△1,463	—	△1,471	—	△20.98

（注）直近に公表されている業績予想からの修正の有無：有

2022年3月期第2四半期より四半期連結財務諸表を作成しているため、対前期増減率については記載しておりません。

1. 業績予想の修正につきましては、本日公表いたしました「連結決算開始に伴う連結業績予想に関するお知らせ」をご覧ください。
2. 当社は、2022年3月期において、連結財務諸表を作成していないため、対前期増減率の記載をしておりません。

※ 注記事項

- (1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動（連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動）：有
新規 1社 （社名）株式会社PrimRNA
（注）詳細は、添付資料P. 9「2. 四半期連結財務諸表及び主な注記（4）四半期財務諸表に関する注記事項（当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動）」をご覧ください。

- (2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用：無

- (3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

- | | |
|----------------------|----|
| ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 | ：無 |
| ② ①以外の会計方針の変更 | ：無 |
| ③ 会計上の見積りの変更 | ：無 |
| ④ 修正再表示 | ：無 |

- (4) 発行済株式数（普通株式）

① 期末発行済株式数（自己株式を含む）	2023年3月期2Q	70,151,558株	2022年3月期	70,011,258株
② 期末自己株式数	2023年3月期2Q	5,827株	2022年3月期	4,826株
③ 期中平均株式数（四半期累計）	2023年3月期2Q	70,043,934株	2022年3月期2Q	69,908,161株

※ 四半期決算短信は公認会計士又は監査法人の四半期レビューの対象外です

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用に当たっての注意事項等については、添付資料P. 4「1. 当四半期決算に関する定性的情報（3）連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	3
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	4
2. 四半期連結財務諸表及び主な注記	5
(1) 四半期連結貸借対照表	5
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	6
四半期連結損益計算書	
第2四半期連結累計期間	6
四半期連結包括利益計算書	
第2四半期連結累計期間	7
(3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書	8
(4) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	9
(継続企業の前提に関する注記)	9
(当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動)	9
(会計方針の変更)	9
(セグメント情報等)	9

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 経営成績に関する説明

当社は、2021年4月1日付で、アクセリード株式会社と共同で株式会社PrimRNAを設立し、核酸医薬の研究開発を実施してまいりましたが、研究開発の進捗により当社の医薬品事業における同社の重要性が高まったことに伴い、当第2四半期連結会計期間から四半期連結財務諸表を作成しております。これにより、経営成績及び財政状態の前年同四半期比較の記載は行っておりません。

なお、文中の将来に関する事項は、当四半期連結会計期間の末日現在において判断したものであります。

当社は、医療の改善が望まれる疾患に新たな治療薬を提供するため、後期臨床開発品の導入を推進しております。また、中長期的な戦略として、自社技術を核とした核酸医薬をはじめとする最先端となる次世代モダリティの取り込みなどM&Aや提携を推進し、創薬事業の拡大にも積極的に取り組んでまいりました。

なお、新型コロナウイルス感染症の当四半期連結累計期間における業績への影響につきましては、当社は医薬品等の研究開発段階にあるため、軽微であったと判断しております。

(臨床パイプラインの進捗状況)

臨床パイプラインの進捗状況は下記のとおりです。

ENT103 : 国内における中耳炎を対象とした第Ⅲ相臨床試験において、主要評価項目である持続する膿性耳漏を有する中耳炎の臨床所見を有意に改善し、2022年4月、セオリアファーマ株式会社（以下「セオリアファーマ」といいます。）が外耳炎及び中耳炎を対象に製造販売承認申請を行いました。

ENT103はセオリアファーマと共同開発中の耳鼻咽喉科領域におけるパイプラインです。今後、薬事承認、薬価収載というステップを経て、2023年度前半の販売開始を見込んでおります。

NC-6300 : 2021年6月にファスト・トラック指定[※]を受け、米国で血管肉腫を対象に例数追加試験を実施し、12例中5例でPR（奏功）が確認され、2022年4月に全患者への投与が完了しております。現在、ライセンスアウトに向けた活動を行っております。

NC-6300は、エピルピシンのミセル化ナノ粒子製剤です。

※ファスト・トラック指定

米国における画期的な新薬について優先的に審査する、優先審査制度です。完治が難しい疾患に対して高い治療効果が期待される新薬を優先的に審査して早期実用化を促すことを目的とした制度です。

<開発中止のパイプライン>

NC-6004 : 頭頸部がんを対象に、免疫チェックポイント阻害剤との併用による第Ⅱ相臨床試験を実施してまいりましたが、2022年4月、第Ⅱb相臨床試験の暫定的な解析において、主要評価項目である無増悪生存期間（PFS）を達成する可能性が低いと推察されたため、本治験について継続しないことをOrient Europharma Co., Ltd.（以下、「OEP」といいます。）と合意いたしました。

NC-6004は、シスプラチンのミセル化ナノ粒子製剤です。ライセンス先であるOEPと共同で臨床開発を進めてまいりましたが、本製品の開発中止に向けた手続きを進めております。

VB-111 : プラチナ製剤抵抗性再発卵巣がんを対象とした国際共同第Ⅲ相臨床試験（OVAL試験）において、当社は日本国内における臨床試験を実施してまいりましたが、2022年7月に受領したトップラインデータでは、無増悪生存期間（PFS）及び全生存期間（OS）の解析において、統計的に有意な改善が認められませんでした。

VB-111はアデノウイルスベクターによる遺伝子治療用製品です。

(核酸医薬の推進)

新たなモダリティである核酸医薬は、低分子医薬や抗体医薬の標的となり難かった転写因子などをターゲットとした新たな治療法の提供を可能とします。当社の核酸輸送技術（YBCポリマー複合体及びポリプレックスミセル）は、核酸医薬の生体内での安定性の向上に資するもので、アカデミアとの共同研究を中心に新規パイプラインの拡充および企業との協働に向けて研究開発を推進しております。

NC-6100： 公益財団法人がん研究会有明病院において医師主導第Ⅰ相臨床試験を実施しております。本試験は治癒的切除不能又は遠隔転移を有する再発・進行HER2陰性乳がんを対象としております。

NC-6100は、慶應義塾大学との共同開発プロジェクトによる転写因子PRDM14に対するsiRNA DDS製剤です。PRDM14は、乳がんの約50%で過剰発現し、その幹細胞性・可塑性に関与することが知られており、新規メカニズムの治療法創出を目指しております。

TUG1： 脳腫瘍の中で最も悪性度が高い膠芽腫を対象とした医師主導第Ⅰ相臨床試験開始のため鍵となる非臨床安全性試験を終えるなど準備が進んでおります。

TUG1 ASO（ASO：アンチセンスオリゴ）は、長鎖非翻訳RNA TUG1に対するASO DDS製剤です。本プロジェクトは、国立大学法人東海国立大学機構名古屋大学との共同研究であり、日本医療研究開発機構（AMED）の革新的がん医療実用化研究事業に採択されております。

RUNX1： アクセリード株式会社と共同で株式会社PrimRNAを設立し、医師主導第Ⅰ相臨床試験開始に向け主な非臨床薬効成績の取得を完了、非臨床安全性試験の準備などを進めております。

RUNX1（mRNA）は、軟骨の増殖・分化に関わる転写因子RUNX1のmRNA医薬です。本プロジェクトは、AMEDの医療研究開発革新基盤創成事業に採択されております。

(販売事業の状況)

株式会社アルビオンが販売する美容液エクストラフェュール及び薬用美白美容液エクシア ブライトニング イマキュレート セラム用の当社技術を応用した原材料を供給しております。なお、同社との共同開発製品であるスカルプトータルケア製品「Depth」事業は、2022年12月末をもって全品の販売を終了いたしますが、引き続き、アルビオン社への化粧品原料供給等を継続してまいります。

また当社は、治療法がない領域に新たな医療を届ける一環として、株式会社エイオンインターナショナルとの契約に基づき、PRP療法を用いた不妊治療をサポートしております。

以上の結果、当第2四半期連結累計期間の売上高は、化粧品材料供給収入、開発マイルストーン収入及びPRP事業に係る売上等により91,992千円、営業損失は697,086千円、経常損失は600,597千円、親会社株主に帰属する四半期純損失は887,006千円となりました。

なお、当第2四半期連結累計期間におきまして、以下の営業外収益及び特別損失を計上しております。

- ・外国為替相場の変動による為替差益83,560千円を営業外収益に計上しております。これは主に、当社の保有する外貨建預金の評価替えにより発生したものであります。
- ・投資有価証券のうち、取得価額に比べ時価が著しく下落し、その回復可能性があると思われるものについて減損処理を行ったことにより、投資有価証券評価損281,000千円を特別損失に計上しております。

また、当連結会計年度は連結財務諸表の作成初年度であるため、前年同期との比較分析は行っておりません。

(2) 財政状態に関する説明

① 資産の部

当第2四半期連結会計期間末における流動資産は5,220,538千円であり、主な内訳は、現金及び預金2,753,525千円、受取手形及び売掛金60,705千円、有価証券2,144,030千円であります。

当第2四半期連結会計期間末の固定資産は1,127,421千円であり、主な内訳は、投資有価証券884,117千円等であります。

② 負債の部

当第2四半期連結会計期間末における流動負債及び固定負債は合計で1,620,888千円であり、主な内訳は未払法人税等15,717千円、転換社債型新株予約権付社債1,150,000千円であります。

③ 純資産の部

当第2四半期連結会計期間末における純資産は4,727,071千円であり、主な内訳は、資本金119,150千円、資本剰余金5,499,591千円、利益剰余金△947,534千円であります。

これらの結果、自己資本比率は74.0%となりました。

（3）連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

第27期（2023年3月期）におきましては、当社の成長戦略として、「一段上の企業ステージへ：人々の健康と幸福に貢献」を掲げ、以下の3項目を重点目標としており、特に、後期開発品などの獲得を強化し、収益化に近いパイプラインの拡充を急ぎます。

- ① 承認取得後を見据えた体制の構築
承認申請中のENT103の販売に向けた準備を推進
- ② mRNA/ASO医薬の臨床ステージアップ
mRNA医薬（変形性膝関節症）及びASO医薬（脳腫瘍）の早期臨床入りに向け開発を推進
- ③ M&A等で新たな後期開発品の獲得、提携/導出を推進
アンメットニーズを満たす製品、後期臨床製品の導入や、核酸医薬等の創薬事業の拡大及びライセンスアウトを推進

これらにより、第27期の研究開発費は、1,286百万円を見込んでおります。

当第2四半期連結会計期間より四半期連結財務諸表を作成しており、連結業績予想の詳細については、本日（2022年11月11日）公表いたしました「連結決算開始に伴う連結業績予想に関するお知らせ」をご参照下さい。

2. 四半期連結財務諸表及び主な注記

(1) 四半期連結貸借対照表

(単位：千円)

当第2四半期連結会計期間 (2022年9月30日)	
資産の部	
流動資産	
現金及び預金	2,753,525
受取手形及び売掛金	60,705
有価証券	2,144,030
原材料及び貯蔵品	1,243
その他	261,034
流動資産合計	5,220,538
固定資産	
有形固定資産	0
無形固定資産	149
投資その他の資産	
投資有価証券	884,117
その他	243,153
投資その他の資産合計	1,127,270
固定資産合計	1,127,421
資産合計	6,347,959
負債の部	
流動負債	
買掛金	470
未払法人税等	15,717
その他	393,640
流動負債合計	409,828
固定負債	
転換社債型新株予約権付社債	1,150,000
資産除去債務	25,902
その他	35,157
固定負債合計	1,211,060
負債合計	1,620,888
純資産の部	
株主資本	
資本金	119,150
資本剰余金	5,499,591
利益剰余金	△947,534
自己株式	△27
株主資本合計	4,671,180
その他の包括利益累計額	
その他有価証券評価差額金	25,475
その他の包括利益累計額合計	25,475
新株予約権	30,415
純資産合計	4,727,071
負債純資産合計	6,347,959

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書

(四半期連結損益計算書)

(第2四半期連結累計期間)

(単位：千円)

	当第2四半期連結累計期間 (自 2022年4月1日 至 2022年9月30日)
売上高	91,992
売上原価	19,297
売上総利益	72,694
販売費及び一般管理費	769,781
営業損失(△)	△697,086
営業外収益	
受取利息	14,052
為替差益	83,560
雑収入	179
営業外収益合計	97,793
営業外費用	
株式交付費	435
雑損失	869
営業外費用合計	1,304
経常損失(△)	△600,597
特別利益	
固定資産売却益	2,713
特別利益合計	2,713
特別損失	
減損損失	6,912
投資有価証券評価損	281,000
特別損失合計	287,912
税金等調整前四半期純損失(△)	△885,796
法人税、住民税及び事業税	1,210
法人税等合計	1,210
四半期純損失(△)	△887,006
親会社株主に帰属する四半期純損失(△)	△887,006

(四半期連結包括利益計算書)
(第2四半期連結累計期間)

(単位：千円)

	当第2四半期連結累計期間 (自 2022年4月1日 至 2022年9月30日)
四半期純損失(△)	△887,006
その他の包括利益	
その他有価証券評価差額金	69,430
その他の包括利益合計	69,430
四半期包括利益	△817,575
(内訳)	
親会社株主に係る四半期包括利益	△817,575
非支配株主に係る四半期包括利益	—

(3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書

(単位：千円)

当第2四半期連結累計期間 (自 2022年4月1日 至 2022年9月30日)	
営業活動によるキャッシュ・フロー	
税金等調整前四半期純損失(△)	△885,796
減価償却費	136
受取利息	△14,052
為替差損益(△は益)	△82,889
株式交付費	435
固定資産売却損益(△は益)	△2,713
投資有価証券評価損益(△は益)	281,000
減損損失	6,912
売上債権の増減額(△は増加)	△4,542
棚卸資産の増減額(△は増加)	32,166
仕入債務の増減額(△は減少)	△1,488
その他	△8,648
小計	△679,481
利息の受取額	13,324
法人税等の支払額	△2,621
営業活動によるキャッシュ・フロー	△668,777
投資活動によるキャッシュ・フロー	
定期預金の預入による支出	△502,032
定期預金の払戻による収入	1,447,956
有価証券の取得による支出	△3,540,350
有価証券の償還による収入	3,800,000
投資有価証券の取得による支出	△500,000
その他	2,587
投資活動によるキャッシュ・フロー	708,161
現金及び現金同等物に係る換算差額	82,867
現金及び現金同等物の増減額(△は減少)	122,251
現金及び現金同等物の期首残高	1,097,044
新規連結に伴う現金及び現金同等物の増加額	32,198
現金及び現金同等物の四半期末残高	1,251,493

(4) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動)

当第2四半期連結会計期間において、株式会社PrimRNAを連結の範囲に含めております。

(会計方針の変更)

該当事項はありません。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

当社グループは、医薬品等の研究開発及び製造販売並びにこれらの付随業務の単一セグメントであるため、記載は省略しております。